

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503445		
法人名	株式会社グローバルケアマネジメント		
事業所名	ポテトタウン北の沢		
所在地	札幌市南区川沿1条3丁目5-23		
自己評価作成日	平成24年8月31日	評価結果市町村受理日	平成25年11月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0170503445-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成25年10月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私たちは、利用者個々それぞれの人的環境に配慮した活動を心がけています。そして介護者である私たちも環境であると認識し、実践に取り組んでいます。認知症の人達は、接している私たちの動きや言葉かけ一つで、楽しさが悲しさへ変わったり、またその逆になる事があります。認知症の人が私たちに送っている沢山のサインに気がつかなければその人に適したケアは出来ません。私たちに必要なのは、それを感じる心、読み取る力と、適切な対応を考え、それらを展開し、実践することです。私たちはこれらのことを、お互いの『信頼』という言葉で表現し、常に心にとめて、日々の活動を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ポテトタウン北の沢」は、バス停からすぐ近くの、自然に恵まれた静かな住宅地に立地している。一般住宅の造りをそのまま活かした室内は、利用者が「自分の家」として落ち着いて過ごす事ができる家庭的な温もりが感じられる。管理者は、すべての利用者が幸福になることが福祉の原点であると捉え、最高の「おもてなし」が出来るように職員を指導しながら細やかなケアを行っている。職員は、管理者の指導の下、介護技術の向上を目指して日々努力を行い、各利用者が苦痛のない安心した生活が送れるように支援している。殆どが開設当初からという安定した職員体制で、常に家族の意見や要望に耳を傾け、各利用者の残存能力を活かしながら自立した生活が継続できるように統一したケアを行っている。重度化した場合も、全職員で可能な限り事業所での生活が継続できるように取り組んでいる。今年度より、協力医療機関で勤務していた看護師を職員として採用し、受診にも必ず同行する事で医師との連携も更に深められ、健康面においても利用者や家族、職員の安心感が繋がっている。年間を通した外出の他、花壇に個人のコーナーを設けて好きな花を育てたり、季節に応じた装飾作りを利用者と一緒を楽しむなど、多彩な活動を取り入れている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	創設当時の「住み慣れた地域での安心した暮らし、自分らしさや誇りが持てる暮らし、穏やかで人間らしい暮らし」の理念に加え、事業所独自の理念「信頼」という言葉を追加し、共有している。	開設時の理念を基に、利用者と職員との信頼がケアの基本であるという思いで、新たに「信頼」という内容の理念を追加している。介護計画作成時や個人記録を記入する時に、各利用者が理念に沿った生活を送ることが出来ているか再確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	冬の期間は雪のため、交流は少ないが、春から秋にかけては、庭で取れた野菜の交換や、バーベキュー大会など、日常的に交流している。	散歩の時に近隣住民と話をしたり、犬の散歩をしている方が立ち寄りなどの交流がある。事業所で開催した民謡会や消火器訓練講習に、近隣住民も参加している。子供110番に登録して、地域の子供達に声かけしながら安全を見守っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などに出席いただいている民生委員の方や町内会の役員の方などを通じて、認知症に対する理解や悩み事の相談など、いつでも協力することを伝え、実践している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度定期的に開催し、全てのご家族に参加を促し、議事録を送り、出席頂けなかったご家族からは、来訪の際、意見や要望を聞くよう努めている。	現在の課題や災害対策などを議題に、2か月毎に開催している。災害備蓄品の保管場所についてのアドバイスなどは、運営に活かされている。今後は、参加できない家族の意見収集や地域に役立つ情報などを議題に取り入れて行く意向である。	参加者の意見交換を記録するなど、欠席した家族も会議内容が解るような議事録の工夫に期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市や区の管理者会議には出席しているが、日常の情報は、地域包括支援センター等に提供してもらい、内部研修などにもご協力頂いている。	書類提出や介護認定更新時などに役所を訪問し、パンフレットなども活用しながら役立つ情報の収集を行っている。口腔ケアや嚥下体操などについての情報を得て、日頃のケアに役立てた経緯もある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	見守りを徹底し、身体的、精神的な面でも拘束しないケアを実践している。また玄関も夜間のみ施錠とし、外に行こうとする利用者には、穏やかに接し、同行するようにしている。	法人として「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を含む身体拘束廃止マニュアルを整備している。申し送りの時などに事例に沿って対応を検討して、全職員で拘束に繋がらないように支援している。今後は、禁止の対象となる11項目について、職員間で更に理解を深めて行く意向である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修や職員会議等でも学ぶ機会を設け、言葉遣いや精神面、環境面の虐待についても情報を共有し、防止に努めている。		

ポテトタウン 北の沢

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人を必要とするケースは現在発生していないが、内部研修等で学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には利用者のご家族に対し、契約の締結、解約、または改訂の際等の重要事項は詳細に説明し、ご理解を頂いた上でサインを頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の方が、頻繁に訪問されている。その都度、管理者や職員が、利用者、ご家族を交え率直な意見交換がなされ、それが運営、介護に反映されている。	家族の来訪時に本人の状況などを詳しく話して、意見や要望を聞き取れるように配慮している。管理者が不在の時は職員が対応し、管理者に報告すると共に、連絡ノートやホーム日誌に記録して情報を共有している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送りや職員会議の中で、意見を述べる体制は出来ている。会議に出席出来ない時は、連絡帳やメール等、個別に意見交換ができるようになっている。	各職員は、利用者の生活環境整備に日頃から配慮しており、不便な部分があればすぐに要望を出して改善を依頼するなど、職員の意見や要望が多方面に活かされている。管理者は、各職員の状況に応じて個別に話をする機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者や管理者も現場に来ており、職員の業務体制を把握している。希望休日等も本人の意向に沿った勤務態勢になっている。また、資格取得も奨励され、取得後は給与等に反映され、向上心を持って働ける態勢になっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内の研修は状況に合わせて行われている。また、それぞれが外部研修に参加し、学んだことが内部研修の形で活用されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の会議や交流会等は、管理者だけでなく職員も同行し、他施設の訪問などの活動を通じて、サービスの質の向上等に活用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に利用者と一緒に、おやつや会話を楽しみ、安心して入所出来る環境作りからスタートし、入居後は本人の意向を尊重し、担当職員を配置。本人の安心、安全を確保出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人、家族の不安や困っている事、支援して欲しい事等、話しやすい雰囲気を作り、傾聴しながら信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談者や、本人、家族の要望等を傾聴し、本人や家族が「その時」必要としている支援を見極め、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	少人数のため、家族のような雰囲気の中で、介護する側、介護される側という関係でなく、自然に側にいるのが当たり前という生活空間を大切にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在の利用者のご家族は頻繁に在所し、外出の支援などにも協力的なため、外出レクなどにも一緒に参加し、楽しむことができるような関係が築かれている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族のほとんどが、区内で生活されており、毎週のように訪問され、知人の方で月に数回訪れる方も。一緒におやつやお食事を楽しんだり、外出、外泊も。気兼ねなく会話が出来る配慮や、昼食時の来訪などには、食事等を提供するなどの支援に努めている。	各利用者に応じて、食事や法事、選挙や集会などに家族と出かける機会が多い。個別の買い物に、職員と出かける事もある。職場や宗教関係の知人が来訪する事もあり、帰る時には、再訪問に繋がるように声かけを行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しがちな利用者には個別に対応し、共同作業やレクリエーション等も職員が寄り添い、支え合えるような支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、在宅生活や病院、他の施設に移られた利用者の様子を見舞ったり、ご家族には、困ったことや悩み事など、気軽に相談して下さるように伝え、電話などで近況を伺うようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、日常の本人の態度や仕草から、本人のニーズにつながるよう支援している。	現在は、会話での意思疎通が全員可能であり、日頃の会話から思いや意向を把握している。利用者の状態変化は「介護経過記録」に毎月記録して蓄積している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の話を中心に、ご家族からの聞き取り、入所時に記入して頂いた、基本情報、センター方式の情報などから、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの一日の過ごし方、生活のリズムを把握し、その人の有する力などの、現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族の要望や意見を参考に、全職員がモニタリングを行い、3か月ごとにケアプラン評価表を作成し、ご家族に送付している。また、介護計画からモニタリング、そして次の介護計画と、一連の流れが把握出来るよう、個人別にファイルされている。	家族の意向や思いを事前に聴き取り、毎月のモニタリングを基に3か月毎に更新計画を作成している。介護計画は、本人にも説明している。個人記録用紙に介護計画の目標を取り込み、連動した記録が出来るように取り組んで行く意向である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子や、各種のデータは、毎日詳細に記録され、職員間で情報を共有し、介護の実践や、介護計画の見直しに生かされ、毎月『介護支援経過』が家族に送られている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況と要望に応じて、通院、買い物など、必要な支援には柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会役員の方や、地区の民生委員の方などが定期的に来訪され、防災訓練や内部レク等に参加され、近所の方に声をかけて頂くなど、連携が深まっています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の在宅診療で対応し、通院時、家族対応の際も、必ず職員が同行し、医療情報を記録し、全職員で共有しています。	家族と受診する場合も、必ず職員が同行して医師と連携した対応が取れるように配慮している。本人と医師の会話なども記載した受診記録を個別に整理すると共に、毎月家族に送付して健康状態を報告している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を採用し、緊急時には協力病院の助言で、24時間対応で支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病院や家族からの情報はもとより、時間の許す限りお見舞いに伺うなど、利用者の状態や変化などを把握し、退院時の支援体制を整えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重要事項説明書に、重度化した場合の対応を記載しており、利用開始時に利用者、家族に説明している。医療行為が必要となった時には、適切に、介護施設や医療機関を紹介するなどの対応を行っている。	重度化した場合も、研修などで学びを深めながら、本人に負担のない対応などを具体的に検討して可能な限り事業所で生活できるように支援している。看護師が常駐するようになり、更に医師と連携した細やかな対応が可能になっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が救急救命の講習を受けており、定期的に救急手当や怪我の手当などの指導を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間対応の避難訓練を行っており、訓練には、地域の方々にも参加をお願いし、ご参加頂いている。防災用具保管庫を設置し、水や毛布などを備えている。	消防署の協力の下、近隣住民や町内会役員が参加して昼夜を想定した火災避難訓練を行っている。町内会との連絡網を作成して、協力体制を整備している。近隣からは、災害時の受け入れ場所としての申し出も受けている。	火災以外の災害時におけるケア別の対応について、職員間で具体的に再確認して行きたい意向なので、その取り組みに期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、プライバシーを守り、信頼し、信頼されるケアに取り組んでいる。	ケアを行う前に、本人の意向を確認してから対応している。利用者との信頼関係を作る中で、言葉遣いにも注意して丁寧に接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中から、本人の思いや希望をくみ取り、個別ケアでの言動や、表情を観察し、本人の意向を把握し、自己決定出来るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムを尊重し、それぞれの希望に添って支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の整容等には本人の好みを尊重し、季節感の解らなくなった方には、日常会話をはさみながら、さりげなく助言、支援を行っている。		

ポテトタウン 北の沢

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや、体調に合わせて、希望に添った食事を提供している。後片付けなども、それぞれの体調に合わせて、一緒に行っている。月1, 2回の食レクには、ご家族も参加されている。	食材を見て当日にメニューを決めているが、献立表に記載して内容が偏らないよう、栄養バランスを考えて食事を作っている。利用者の好みを聞いて出前を取る事もある。彩りを添えて見た目も楽しめるように工夫し、職員も食事を共にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各人の状態や体調にあわせて(主治医の指導により)食事バランスや水分摂取の支援を行っている。食事の量や、摂取水分量は日々記録され共有されている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持のため、毎食後の口腔ケアと就寝前の義歯洗浄等を徹底し、衛生面のケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全員がトイレで排泄している。排便については、本人から報告があったり、職員の問いかけで確認し、失敗した時は、プライバシーを尊重し、他の人に解らないように介助する。	全員の排泄を記録し、夜間もトイレでの排泄を支援している。トイレでの排泄ケアから利用者の意識が変わり、自然に自立に繋がる事もある。車椅子使用でトイレでの排泄時には周囲に分からないように配慮して介助している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな利用者には水分、食事内容を工夫している。また運動や腹部マッサージなども行っており、それらで効果のない場合は、主治医の指示により薬でのコントロールを行う。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を拒む利用者はなく、週2回は入浴している。各種の入浴剤を季節ごとに変えたり、シャンプー等も各自で選んで使っている。着替えも自分好みで、おしゃれを楽しんでいる。	いつでも入浴できる態勢を取り、希望に沿って入浴を行っている。入浴支援の工夫を「連絡ノート」で共有し、職員1人の入浴介助でも苦痛のないケアを学びながら、利用者が安心して楽しめるように対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や、体調に合わせた活動や生活パターンを崩さないようなケアを心がけ、プライベートな空間や、安息の時間を作り、気持ち良く眠れるよう支援する。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	月2回の往診の都度、薬の見直しや確認を徹底し、その内容はファイルされ、全職員が把握できるようになっている。副作用についても医師や薬剤師のアドバイスを受け、誤薬、欠薬のないよう注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で、自然に役割分担が出来ており、それぞれの個性が生かされている。またレクや催事の面でも一人ひとりの生活歴や能力を生かした役割の支援をしている。		

ポテトタウン 北の沢

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には戸外で歌を唄ったり、公園に出かけたりしている。また食事レクでも、遠くまでバスで出かけて、小旅行気分を味わったり、近くのレストランでは、優先席を用意して頂くなど、地域の方々のご協力も頂いている。	冬季以外は庭に出て、畑づくりや自分の好きな花を育てるなど、外気に触れる機会が多い。店に出かけて好きなドーナツを選ぶ楽しみもある。冬でも月1回の外食レクを行い、人混みの中に出て気分転換ができるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族の意向により、金銭の管理はホームでさせていただき、買い物等も要望に応じ自由に出来るようになっている。その都度金銭出納帳に記入し、家族の方の来訪時に、領収書の確認とサインを頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は深夜以外、いつでも自由に使用出来、プライバシーに配慮し、それぞれの居室で会話を楽しむことが出来る。手紙も自由に出せるよう、封筒、便せんが用意されている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者共用の居間には、テレビ、長いすを用意し、時間の制限なく、自由にお茶を飲み、会話を楽しめる空間を作り、居心地良く過ごせるよう工夫されている。	利用者と合同制作で、事業所を「家」とイメージした季節の作品が玄関に飾ってあり、もてなしの温かい雰囲気がある。共用空間は一般住宅の家庭的な環境を活かして改造し、随所に工夫が見られる。居室が多い2階への階段は両側の手摺りで安全に移動ができ、階段の昇降は運動にもなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きな時間に、好きな場所で、読書や手芸を楽しむ、1人でもくつろげる椅子やテーブルはいつも解放されている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇や、使い込まれたタンスや好きな飾り物など、いままでの生活と同じように、居心地良く、生活出来るよう考えられている。	仏壇には生花を活け、読書や新聞を楽しみ、家族の写真や手作りの作品を壁いっぱい飾るなど、個々に雰囲気のある居室になっている。個人の暮らしを延長した環境づくりで心地よく過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの生活の中で、出来ない事ではなく、何が出来るのかを知り、育て、出来ることに自信と生き甲斐を感じ、自立した暮らしが送れるよう工夫している。		

目標達成計画

事業所名 ポテトタウン 北の沢

作成日：平成 25年 11月 6日

市町村受理日：平成 25年 11月 7日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	参加者の意見交換を記録するなど、欠席した家族も会議内容が解るような議事録の工夫に期待したい。	推進会議の議事録をより詳細に、個人情報に触れない程度に記録し、出席出来なかったご家族にも伝わるよう工夫する。	個人情報となるような介護等の内容の場合は、他施設等の事例という表現で記載するなど工夫し、より詳細な内容が伝わるようにします。	2ヶ月
2	35	火災以外の災害時におけるケア別の対応について、職員間で具体的に再確認して行きたい意向なので、その取り組みに期待したい。	夜間対応の訓練だけでなく、地震等の災害に対応した総合的な訓練や、消防職員等からの講習も取り入れる。	法令に基づいた、年2回の訓練の他、自主訓練など、日常的に自覚し、災害に向けた取り組みを実施する。	2ヶ月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。